

平成 24 年度事業報告書

平成 24 年度、当センターを取り巻く環境は大変厳しいものでした。

当該年度の日本経済は、東日本大震災からの復興需要や政策効果により、一時的に回復傾向が見られました。しかし円高やデフレ傾向は続き、この状況に対し、平成 24 年 12 月に誕生した新政権は、経済再生へ向け緊急経済対策を策定しました。

本対策による政策効果に加え、世界経済の穏やかな持ち直しが期待されることから、わが国の経済は徐々に回復していくと見込まれています。

また、本対策により GDP 成長率が 2% アップして雇用が 60 万人増えると言われていますが、現実には難しいとの意見も聞かれます。

このような状況の中、平成 24 年度当センターは地域社会との連携を念頭に、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりに寄与できるよう事業展開に努めました。

当該年度は、団塊の世代が 65 歳に達し、本格的に労働市場から退出する（2012 年問題）ことが予想され、このことが会員数の増加につながると期待されましたが、病気や加齢等の理由による退会者数が、入会者数を上回ったため、結果的には前年度を下回る会員数となりました。

契約実績については、厳しい経済情勢を背景に、典型的な高齢者の就業の場と言われてきた職種においても一般企業が進出して来るようになりシルバー事業を取り巻く環境は一段と厳しい状況になってまいりました。また、法令順守の観点から、請負になじまない業務の契約を中止せざるを得ないなど適正就業を推進した結果、受託件数、契約金額とも前年度を下回る結果となりました。

センターの経営について、公益社団法人として健全な運営に努めるとともに、将来を見据えたより自立的な経営を念頭に財政基盤の改善に努めました。

平成 24 年度の当センター事業の推進に際し、三鷹市、東京都、国からご理解とともに多大なご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

1 事業概要

平成 24 年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。なお、()内は前年度の実績です。

会員数	1,594 人	(1,623 人)
-----	---------	-----------

	男 993 人(1,011 人)	女 601 人(612 人)
受託件数	10,584 件	(10,690 件)
契約金額	5 億 8,608 万円	(6 億 1,666 万円)
配分金	5 億 2,215 万円	(5 億 4,802 万円)
就業延人員	186,704 人	(194,142 人)
就業実人員	1,267 人	(1,263 人)
就業率	79.5%	(77.8%)

これを前年度（平成 23 年度）の実績と比べますと、
 会員数は 29 人（1.8%）の減、受託件数は 106 件（1.0%）の減、契約金額は 3,058 万円（5.0%）の減となり、配分金では 2,587 万円（4.7%）の減となりました。一方、就業実人員は 4 人（0.3%）の増となり、就業率は 1.7 ポイントの増となりました。

2 事業報告

(1) 就業開拓提供事業

ア. 就業率の向上を目指し就業機会の確保に努めました。具体的には就業委員会と事務局が連携し、新規・既存発注者への訪問活動を実施しました。その結果、体育館管理や施設受付の仕事を開拓するとともに、25 年度からの新規業務として、高校の通学指導や施設の大規模清掃などの仕事を確保いたしました。また、就業委員会では独自に市内の高齢者介護等施設への訪問を実施し、出張講座の仕事を確保するなど一定の成果を得ることができました。

公共事業については、就業会員のローテーションの推進や研修を通じてミーティングの場づくりを進め、就業の質の向上に努めました。また新たなユニフォームの着用を通して、士気の高揚に努めました。

イ. 前年度に引き続き就業基準の「5 年継続して就業した場合」原則として就業を交替するといういわゆる 5 年ルールを継続いたしました。

5 年ルールの適用は、主に労働法の遵守に伴うものでしたが、該当した会員の皆様にとっては大きな変化を求められるものであり、厳しいものとなりました。改めてご協力に感謝いたします。

交替後の会員の就業先や活躍の場の確保が引き続き課題となっています。

ウ. チョットサービスから始まった包丁砥ぎは需要が多いことから、

井口班、中原班が中心となり、コミュニティセンターや団地の集会所において、定期的を実施し好評を博しました。

エ. 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川・中仙川遊歩道などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童の登下校に際し安全を見守る児童安全パトロールに約 300 人の会員が参加するなど、それぞれ地域に密着した活動を積極的に行いました。

(2) 普及啓発事業

ア. 地域で就業などを通して社会参加を希望する高齢者に向けて、センター活動をPRし入会の促進に努めました。

イ. 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや社会奉仕活動などの取り組みを通して地域の住民、事業所などの信頼を確保し、シルバー活動の普及に努めました。

ウ. ホームページの更新、「広報みたか」など市の刊行物によるPR、ケーブルテレビの活用、パンフレット・チラシなどの配付、他機関との合同PR活動、市役所ロビーにて企画したシルバー人材センター展の開催、当センター2階で実施した生涯学習教室の作品展の開催などにより、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ. 市民の行事として定着した「三鷹阿波おどり大会」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

オ. 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「地域班だより」の発行、地域班長会議での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

カ. 植木班では、シルバー活動の普及啓発を念頭に、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、老健施設や特別養護老人ホームに贈呈し、感謝されました。

キ. ビデオ班は本年度、発足から 10 年、ケーブルテレビの番組制作 100 回を記念する年となり、独自のパンフレットを作成し市や地域にアピールしたところ、新聞やテレビでその活動が紹介されることとなりました。

(3) 研修・講習事業

ア. 会員がセンターの事業理念などを理解・賛同すること及び就業・社会奉仕活動などに必要な知識や技能を習得することで、質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、研修・講習事業を下記のとおり実施いたしました。

また、業務改善などを意図した就業先単位の会員のミーティング

の場づくりも研修効果の高い取組みとして推進しました。

今年度は新たに、就業場所でのコミュニケーション能力の向上を目指し、市民と接する機会が多い駐輪場などで就業する会員を対象にコミュニケーション研修を実施いたしました。また、植木班員の技能向上を目的とした植木実技研修も実施いたしました。

(ア) センター独自の研修

役員・地域班長合同研修 「地域班活動について等」	参加者
12月3日	30人

役員、地域班長及び連絡員等合同研修

「高齢社会におけるシルバー人材センターの新しい役割」	
1月18日	94人

ホームヘルパー研修	8回	238人
-----------	----	------

新入会員研修	12回	187人
--------	-----	------

コミュニケーション研修	4回	99人
-------------	----	-----

植木研修	3月12、13日	16人
------	----------	-----

(イ) 合同研修 (第5ブロック)

理事研修「理事の役割と活動」	11月8日
----------------	-------

安全講習会「健康講話」	7月31日
-------------	-------

会員研修「活発な地域班活動」	2月15日
----------------	-------

(ウ) 連合及び全シ協主催研修

監事研修	4月10日
------	-------

安全安心大会	7月13日
--------	-------

シルバー人材センターフォーラム	10月19日
-----------------	--------

三役研修	1月11日
------	-------

(4) 調査研究事業

ア. 受託事業について、発注者側の満足度の調査や個々の就業会員に関する評価の聴取を実施し、サービス改善と発注者の信頼の向上を図りました。

イ. 独自事業について、現在の事業の評価や市民ニーズとのマッチングを検証するとともに改善に努め、補習教室では業績の回復につなげることができました。

ウ. 平成26年度からの新たな指針となる「第3次中長期目標・計画」(仮称)を策定するにあたり、会員の皆様の様々な考え、意見を伺うため意識調査を実施し、その集計・分析などを専門家に依頼いたしました。

(5) 相談事業

- ア. 入会を希望する高齢者に対し、センター施設内で毎月 2 回入会説明会を実施するとともに、常時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。
- イ. 市の外郭団体と共同で、一般市民を対象とした相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民へ情報を提供しました。

(6) 安全就業推進事業

- ア. 安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をする上で最も重要な課題と認識し、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

平成 24 年度の事故の発生件数は 23 件で、前年度と比べて 8 件の増となりました。安全管理委員会や安全リーダーを中心に様々な安全施策を講じてきましたが、誠に残念な結果となりました。

依然として、ヒューマンエラーなどに起因する事故やヒヤリハットが多く見られ、事故ゼロを目指し今後さらに取組みの強化が必要となっています。

- イ. 安全就業のしおり・安全就業基準の配布、安全標語の募集、安全ニュースの発行などにより、事故防止の意識啓発に努めました。
- ウ. 当センターでも重篤事故が発生したことから「重篤事故防止の日」を設定し、従来の「健康・安全の日」と同様に就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識の高揚の取組みや就業現場の巡視など、とくに重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。
- エ. 就業会員には、特定健康診査の受診を徹底するとともに、全会員対象に健康への適正な自己管理を行うよう環境づくりに努めました。